

明治期における現北九州市門司区の郵便事情

松本 義幸

この度、機会を得て初めて収集品を発表させていただきます。テーマは当方の地元、旧国名豊前国より現北九州市門司区（企救郡の一部）のみに限って整理しました。

なぜ、このテーマかと云うと記番印は無いものの（一説にはイラ第八号：大里も未確認）不統一から豊前国では唯一の欧文印があり、消印が一通り網羅され面白いことと、多少コレクションがあるので皆様の厳しい目に少しは耐えられるかなと思ひ選びました。

門司地区は明治22年11月に門司港が国の特別輸出港となり、また、明治24年1月門司港駅もできて将来の鹿児島本線の起点となり、さらに対岸の下関との間の関門連絡船との連絡中継となり賑わい、明治20年前後より急速に発展しました。今となつては紙付未整理BOXを見てもなかなか門司の局名は出てこないかも？でも、明治期の使用済みを集めている方の収集品には丸一印だったら数枚はコレクトされているような駄物です。併せてその地区の昔と今の盛衰も感じて頂ければ幸いです。

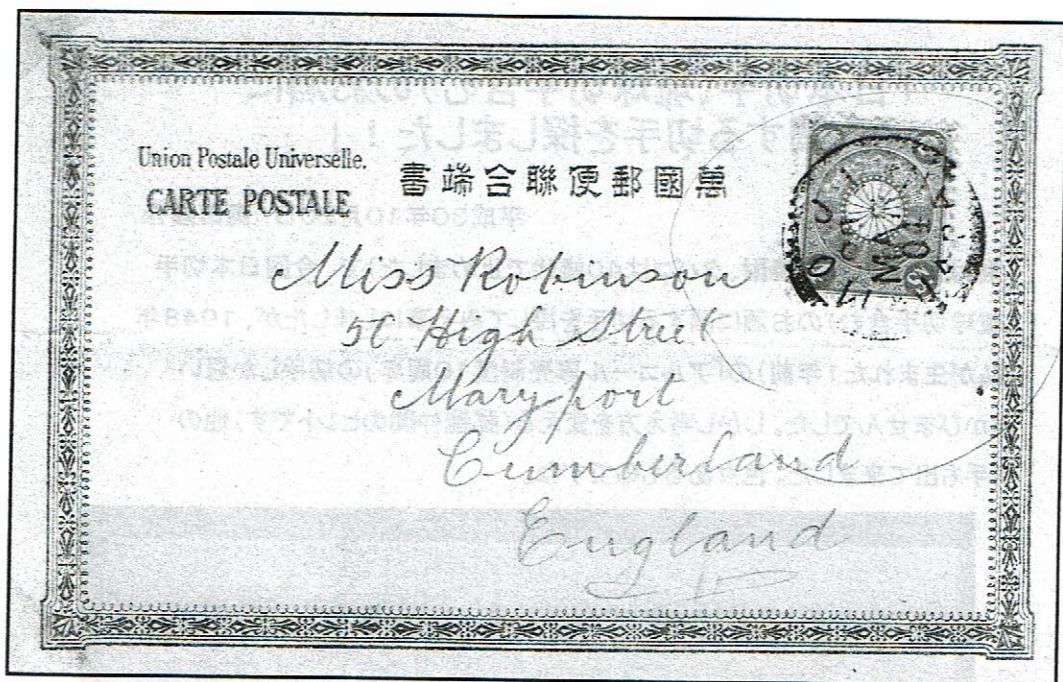
まず、この地区で一番最初に開局したのは大里局（M4.12.5）でこれは豊前、小倉、黒崎、山家、肥前、佐賀、長崎と同じで福岡や博多局よりも早いのです。これはなかなかのものです。当時の郵政がまず長崎街道から整備しようとしたことが伺えます。大里局の最初の消印は不統一印で丸型（①）と角型（当方未収）があります。これはJAPEXオークションで熊本の小川氏にフローアで代行入札してもらいました。印影が薄く氏も心配してくれましたが以後、全く見ていないので良い出会いだったと満足しています。入手して30余年手放さずにいます。本当に氏には感謝の合掌です。

大里局は当時としても地域の大局と思われませんが二重丸、丸一印消も全く見かけません。交通の要所ですが、意外と田舎町だったのでしょいか。

明治20年代には門司港開発に伴い、門司港地区に開発、発展はシフト。同21年12月より門司局が開設されこの地区の郵便業務を一手に担った。

門司局は丸一印しかないが欧文年号2字（②）、朝鮮支那字入切手へのパックボー扱消（③）、鉄道起点故の丸一鉄郵消（④）、他に非郵便消も含めて各種タイプが存在します。また2000年にMOJIの明治二重丸（⑤）、同欧文年号2字の文字異型（⑥）、豊前、大里検疫所（⑦）の丸一印等が発見され、今後まだまだ何が出てくるか期待と不安（金銭的な）が交錯します。

最後に地元消（現行を含む）をされている方、気軽に声を掛けて頂けると幸いです。密度あるコアな話題で盛り上がりましょう。



⑥ MOJIの「O」が細長，年・月・日が少し大きい。特に月は顕著。



①大里局不統一印



②門司局欧文年号2字



③朝鮮加刷切手パックボー



④鉄郵 門司八代間



⑤明治二重丸印



⑦豊前大里検疫所印